

No.777 August 2021

# ASAHI MACHI

Public Relations

📞 広報 あさひまち

流れる汗に流れる麺  
手作りの箸が止まらない

2021

8

No.777



## 朝日町×ミズノ株式会社 第2期まちづくり連携協定を締結

町はこのたび、平成28年からまちづくり事業で提携している大手スポーツ用品メーカー「ミズノ株式会社（以下「ミズノ」）」と第2期まちづくり連携協定を締結しました。

町民の健康寿命延伸を図りたい町と、スポーツ分野で培ったノウハウを健康や農業などの他分野への事業拡大を模索しているミズノ。このたびの協定は第1期の成果と反省を踏まえ、第2期でも引き続き課題解消に向けて連携することを双方が合意したうえで、実現したものです。

7月13日、創遊館で行われた締結式には、鈴木浩幸町長、川口幸男副町長のほか、ミズノから、中島隆雄執行役員、赤間靖浩東北支社長が出席。「これまでの事業やイベント等を礎に、第2期は町とミズノが将来に渡って飛躍できる地域づくりを実施し、官民連携による地方創生の在り方を全国に発信していきたい」と鈴木町長が決意を表明しました。

中島執行役員は「第2期は第1期でできなかったことや反省を生かして、さらにレベルアップして取り組んでいきたい」と述べ、「住



民の健康習慣の定着、「農業者への技術協力」、「子どもたちのスポーツ参加の機会の増加」と、ミズノとして連携事業で取り組んでいく3つの狙いを示しました。

また締結式では、東京五輪柔道全日本男子チームで監督を務める井上康生監督への応援メッセージフラッグの引き渡しが行われ、また、提携事業の一環として平成28年度に井上監督から記念講演・柔道教室を行っていただいたことから、町柔道連盟が中心となりフラッグを作成。代表チームと関わりの深いミズノを通じて、後日、井上監督に直接渡していただきました。井上監督からは、「ありがとうございます。練習場、試合会場にも持参します」とのコメントが寄せられました。

## 目次 CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News  
朝日町×ミズノ株式会社 第2期まちづくり連携協定を締結
- P4 特集  
ICT活用で変化する町の教育
- P8 町政スポット  
・令和2年度 朝日町ふるさと納税寄付実績を報告します  
・災害時の電動車両等の無償貸与に関する協定を締結  
・「明るいやまがた」夏の安全県民運動」出発式 ほか
- P12 まちレポ  
・浴衣の着付け教室  
・ドキドキ探検隊「流しそうめんをしよう」 ほか
- P15 中国由来の書「百福図」、「百寿図」が寄贈され「みんなの居場所 すぽっと」に飾られています  
「ウサ日めぐり」第3弾登場
- P16 健康あさひるばんざい  
朝日町エコミュージアムサテライト散策
- P17 それいけ協力隊とウサビ、町立図書館コーナー
- P18 各種スポーツ大会の成績
- P19 戸籍のまど、となりのりんごさん、2年ぶりに緑が丘公園町民プールがオープン!
- P20 大沼浮島「島まつり」

### 表紙の写真



7月24日、秋葉山交遊館でドキドキ探検隊が行われていました。今回の活動内容は流しそうめん。この日は気温が30度を超える真夏日で、そんな中でも元気に走り回り、汗をかいた子どもたちには冷水で冷やされた流しそうめんは何よりのごちそうでした。(12頁に関連記事有)

### 町長歳時記 (177)

## 東京2020オリンピック ～逆境の中にある今 立ち上がる～

逆境の中にある人間の精神力とは一体どこから来るのだろう。と、スポーツを観戦しながら思うことが度々あります。それが4年に一度のオリンピックという世界最高の場であれば尚更のこと、オリンピックアスリートから目が離せません。

東京2020オリンピック第3日目。卓球混合ダブルス日本の水谷・伊藤組が臨んだ準々決勝対ドイツ戦。ゲームカウント3対3で迎えた最終ゲーム。2対9と圧倒的な点差でドイツにリードされ、あと2点取られると敗退が決まってしまう。見ている方も諦めかけた絶望的な場面。そこからの日本チームの驚異的な粘り。水谷の気迫のプレー。それに必死について行く伊藤の姿。「大丈夫。落ち着いて行こう」と励まし続けた先輩水谷の言葉を、文字通りの100%信じ切って行った後輩伊藤のひた向きさ。7度のマッチポイントを乗り越えた大逆転勝利。

多くのドラマが生まれ、そして語り継がれる東京2020オリンピック。私の心に響き続ける言葉「オリンピックを開催していただいたことに感謝します」ほとんどの金メダリストの第一声がこの言葉から始まりました。

しかしこのオリンピックを取り巻く状況は、大変厳しいものがありました。普通にあるべきことが、もしかしたら無くなってしまったりかもしれない。そんな不安と焦燥の中開催されたオリンピック。多くの選手たちは4年に一度の大会を目指し限界に挑戦し、日々努力を積み重ね、一年間の延期を乗り越え、代表の座を獲得して来ました。彼らはどんな状況にあっても、自分を信じ、必ず来る未来を信じ、不屈の精神で前向きに困難を乗り越えてきました。そんな意思ある生き方が未来を拓き、世界を作っていくのだと、全てのオリンピックアスリート、そして彼らを支え続けた大勢の人々が、私たちに語りかけているのが、東京2020オリンピックであると思います。

朝日町長 鈴木浩幸



▲タブレットを使って説明資料を作成し、モニターに映しての発表。大判用紙に書いてまとめるという手間が不要に  
▶児童全員の進捗状況は教師の画面で確認が可能



◀ミニトマトの写真を撮影し、これまで撮った写真と比べ、どこが変わったかの観察日記を作成



▶観察日記ができれば児童同士で共有できる「みんなのひろば」に載せて、お互いに拍手やコメントすることが可能

**新しい学びの形**  
6月23日、町広報は宮宿小学校を訪れ、タブレットを使った授業の様子を観望しました。2年生の生活科の授業では、野菜の観察日記を作成し、日記を共有してお互いに評価していました(上写真)。6年生の総合の授業では、予定している「SDGスラー」の事前学習として、訪問する場所を調べて発表していました(左写真)。  
どちらの授業にも共通することは、自分で調べて考えをまとめ、発表・共有することで、多様な考えに触れ、学びを深めることです。ICTの活用により、「協働的な学び」が実践できています。



### ※用語の説明

①ICT…日本語で情報通信技術。通信技術そのものよりも技術の活用方法を指す言葉。身近なところでは、メールやSNSも含まれる

②GIGAスクール構想…1人1台端末と、高速大容量通信ネットワークを整備することで、「多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化されたより良い教育」を全国の学校現場で持続的に実現させる構想



宮宿小学校2学年  
浅岡 優作 さん

タブレットは文字を入れるのが難しかったけれど、絵や写真を描いたり撮ったりするのは簡単でした。新型コロナのせいで、あまり友達と話したり触れたりすることができなかったけれど、タブレットを使うことで自分や相手の気持ちを伝えることができました。



宮宿小学校6学年担任  
稲垣 健太 教諭

### タブレットを使うことで情報の共有が容易になりました。

4月からタブレットの活用が始まりましたが、私たちが子どもの頃とは違い、今の子どもたちは最初からタブレットを使いこなせていて驚いています。

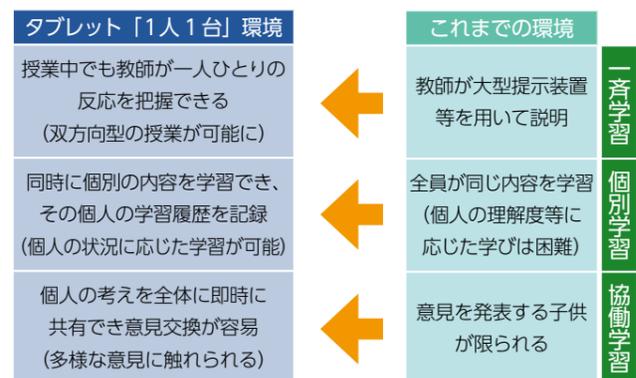
教師としては、授業の中で教科書や児童のノートを全員に大きく見せたい場合に、タブレットのカメラで撮ってモニターに映すことで簡単に共有できるようになりました。

同じことをするのに以前はコピーや印刷で時間が掛かるところが今は一瞬で終わり、その時間を別のところに費やせます。

ICTの活用により授業のできることの幅が広がっています。宝の持ち腐れにならないよう教師の側もデジタル化についていかなければならないと思っています。

**急激に進むICT化に対応**  
国が推進する「GIGAスクール構想(※②)」は当初、令和元年度から5年間かけて整備することとされていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による新しい生活様式への対応を受けて、計画が前倒しされICT化が急激に進展しています。  
町では、令和2年度までに町内小中学校の子どもたち1人1台のタブレット端末と校内に高速大容量の通信が可能なネットワークを整備。今年4月からICTを活用した新たな学びを行っています。

### GIGAスクール構想でこう変わる！



今年4月から町内の小中学生二人ひとりにタブレット端末が貸与され、それを活用した授業がスタートしました。社会のあらゆる場所でICT(※①)の活用が日常となっている今、子どもたちはこの情報化社会を生き抜く力を身に付けなければなりません。  
今月号では、これからの時代に対応できる子どもたちを育むこと、大きく変化している町の教育について特集します。

# ICT活用で 変化する町の教育



▲ICT支援員による研修会の様子



▶模擬授業でのメダカの見分け方の図解。先生方の力作ぞろい

◀教員間でも情報の共有が行われ、充実した研修会に



▲山形大学の学生とウェブ会議ツールで繋がり、双方向でのやり取りを実施



▲作品を様々な角度から撮影する生徒たち

### ※用語の説明

③ウェブ会議ツール…パソコンなどとネット環境によって、場所や時間を問わず顔を合わせて会議等を行えるツール。コロナ禍の今、離れた場所とやり取りする際、頻繁に使用されている

④ICT支援員…学校における教員のICT活用(例えば、授業、校務、教員研修等の場面)をサポートすることにより、ICTを活用した授業等を教師がスムーズに行うための支援を行う

**活用方法を教員も勉強中**  
7月29日、町内の教員向けに夏季研修会が行われ、約25人が大谷小学校でICT活用についての研修を受けました。研修の前半では大谷小学校の高橋一徳教諭による理科の授業を想定した模擬授業が行われ、教員が児童側の立場となってタブレットを活用した学習について体験しました。  
研修の後半ではICT支援員(※④)である株式会社WILLの佐々木慧氏から授業でのタブレットの活用事例や教材の作り方についての講話がありました。佐々木氏は「昨年度から小学校でプログラミング

町ではICTを活用した新しい学びを通じて、第2次朝日町教育振興計画に掲げる基本目標である「ふるさと朝日町を想い、自信と誇りに満ち未来を拓くたくましい人づくり」の実現を目指し、今後学校を支援していきます。

**ICT活用目的**  
ICT教育を推進する上で忘れてはいけないことは、ICTの活用は手段であり目的ではないということです。タブレットが整備されても、教科書を読んだり、鉛筆でノートに書いたりなど紙を活用した学習がなくなるわけではありませぬ。子どもたちが豊かな創造性を育み、持続可能な社会の創り手として、未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していくことが目標です。

**ICT活用の可能性**  
7月16日、朝日中学校1学年が、山形大学地域教育文化学部文化創造学科の学生とウェブ会議ツール(※③)で繋がり、美術鑑賞の授業を行いました。今年度同校の美術科では、同大学の協力を得て、校内で定期的に大学生が制作した作品を展示しています。授業では朝日中の生徒が作品についての感想や疑問を写真とともにタブレットでまとめ、ウェブ会議ツールで制作者に発表。生徒たちの写真の撮り方は様々で、大学生も生徒たちの新しい感性による作品の見方に



▲撮影した動画は動きの確認用と、教師へ提出用の2つの用途



朝日中学校1学年 佐藤 羽華 さん

美術の授業では普段接する機会のない人と話をすることができ、いろいろな意見を知ることができました。体育では、運動中に手足の先が伸びているかなど自分では分からないところを確認・修正できるのでよかったです。

刺激を受けていました。また、その日の午後には同じく1学年の体育科でマット運動の授業が行われました。ICTの活用と無縁に思われる体育ですが、今回のマット運動では自分の動きをタブレットで動画撮影することでフォームが正しいかなどを客観的にチェックすることができました。これまで教師は全員の動きを見取り、授業内で評価するのは困難でしたが、提出された動画を見返すことでじっくりと評価でき、次の授業のアドバイスを考えることができます。

## 児童生徒の学習環境を最大限に支援

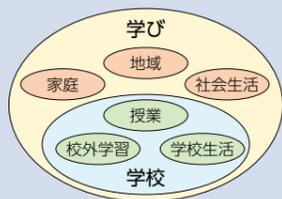


朝日町教育委員会 教育長 堀 俊一

昨年の全国一斉休校措置により、一気にGIGAスクール構想が実現されました。スタートを切ったばかりの今年度は、学校での活用に限定しています。1人1台のタブレット端末の学習環境を最大限に生かせるように、教育委員会として学校を支えていきます。

右図に示したように、学校以外の様々

な機会に学びの場があります。学校での端末活用を積み重ねた先には、家庭等での活用も期待されます。その際には、保護者や地域の皆様にもご理解とご協力をお願いします。



## ここで一休み 比べてみよう！今と昔の学校で使われた道具

**謄写版(ガリ版)** 明治時代に生まれ小・中規模印刷に大活躍した簡易印刷機のこと。鉄筆で文字を書き、その穴からインクが押し出され印刷される。

今は「印刷機」で大量印刷が可能

**OHP** 昭和40年代頃から普及し、透明なシートに書かれた文字や絵をレンズを通して拡大するもの。

今はタブレットとモニターで簡単に表示

## 災害時の電動車両等の無償貸与に関する協定を締結

■総務課 危機管理係 ☎67-2111



協定書を取り交わす鈴木武浩代表取締役社長（左）



デモにて電動車両から給電を受ける電気製品

7月12日、町は山形三菱自動車販売株式会社（鈴木武浩代表取締役社長）との間で、「災害時における電動車両及び給電装置の貸与に関する協力協定」を締結しました。

この協定は当町において、災害等により大規模停電が発生した際に、町が同社から電動車両及び給電装置の無償貸与を受けるものです。

災害時等に貸与を受ける車両は、「移動手段」としての機能だけでなく、電力や燃料の供給が途絶えた場合の機動力のある「非常用電源」として活用することができ、満充電、ガソリン満タンの状態で、最大一般家庭約10日分の電力が供給可能。災害の初期対応への貢献が期待されます。

役場庁舎で行われた締結式では、鈴木浩幸町長と鈴木武浩代表取締役社長が協定書に署名を行いました。鈴木町長は「万が一のための備えがあることは町民にとって心強い」と述べ、鈴木社長は「災害が発生した場合には、スムーズな貸し出しを行うことで、災害対応に寄与していきたい」と話しました。式典後は役場車庫にて、電動車両による給電デモンストレーションが行われ、実際に電気製品が作動する様子を見学しました。

## 「明るいやまがた」夏の安全県民運動」出発式

■総務課 危機管理係 ☎67-2111



重点4項目の説明を受ける参加者の皆さん



道路の横断時や乗車時の約束事を発表する子どもたち

7月21日、「明るいやまがた」夏の安全県民運動」出発式が、あさひ保育園で開催されました。7月21日から8月20日までの31日間、「青少年の健全育成といじめ・非行や犯罪被害防止」、「子どもと高齢者の交通事故防止・飲酒運転の撲滅」、「海・山・川での事故防止」、「身近な犯罪等の防止」の4項目を重点的に推進していきます。

夏は長期休暇、レジャー、暑さによる気のゆるみや疲労などから交通事故や水の事故等が多くなり、また青少年の非行や街頭犯罪も多くなる傾向にあります。これらの事故を防止するとともに、青少年の健全な育成を図るため、新型コロナウイルス感染症を完全にしながら町民総ぐるみの運動を展開します。

式典では、鈴木浩幸町長、寒河江警察署竹岡文敏交通課長のあいさつの後、保育園かもしかクラブの子どもたちによる「交通安全のお約束」が披露され、日頃の活動成果を発表しました。式典後は、参加者の見送りを受けて、寒河江警察署のパトカー等6台の車両が保育園をスタート。町内の人々に「明るいやまがた」夏の安全県民運動の取組みを広報しました。

## 令和2年度 朝日町ふるさと納税寄付実績を報告します

■政策推進課 広報ブランド係 ☎67-2112



寄付者へ送付している「ふるさと通信」、年2回発行で累計12号が発行済



今年度は新たに「あけび」など朝日町らしい特産品を追加。申し込みサイト等に食べ方も掲載予定

昨年度、町へ寄せられたふるさと納税寄付は、寄付件数8,913件、寄付総額1億2,449万円で、過去2番目に多い件数・金額となりました。

寄付者が希望する寄付金の使い道で最も多かったのは「町長におまかせ事業」、次いで「ふるさとを愛し学び合う教育事業」と続き、特に子育てや教育環境への関心が高まっています。また、昨年度は7月豪雨災害などが発生していることから、近年では「自然と共生する安心な暮らし事業」を選択する寄付が増えています。

町では、寄付金の使い道について寄付者の指定に沿って、今年度の施策に活用。若者の地元定着と移住促進を図るため助成金を支給する「若者移住・定住支援事業」や、新型コロナウイルス感染症による影響への支援として「持続化給付加算金」「感染症予防対策支援事業補助金」など、有効に活用していきます。

「寄付者に対して使い道や町の魅力を継続して発信する取り組みや、新たな返礼品の開拓に力を入れていきます」と話すのは業務を統括する佐藤修政政策推進課長。今後の運営方針について「町独自の取り組みをさらに推進することで関係人口の拡大に繋げ、長期的に支援していただきたい」としています。

令和2年度  
寄付総額

1億 2,449万円 8,913件

【使い道別の寄付件数と金額、今年度寄付金が活用される主な施策】

| 使い道                | 件数 (件) | 金額 (万円) | 今年度の主な使い道                      |
|--------------------|--------|---------|--------------------------------|
| 町長におまかせ            | 2,599  | 3,699   | 朝日町若者移住・定住事業、ミズノとの提携事業 ほか      |
| ふるさとを愛し学び合う教育事業    | 2,396  | 3,293   | 合同修学旅行外国語研修補助、特定不妊治療助成 ほか      |
| りんごとワインの里の産業・観光事業  | 1,960  | 2,659   | 無袋ふじ誕生50周年事業、創業支援補助事業 ほか       |
| 思いやりあふれる健康な暮らし事業   | 862    | 1,252   | 入浴施設利用補助事業、みんなの居場所すぽっと運営委託費 ほか |
| 自然と共生する安心な暮らし事業    | 846    | 1,207   | 消防団員用雨具整備、地球温暖化対策実行計画策定業務 ほか   |
| つながりを大切にしたい地域づくり事業 | 250    | 339     | Newアクション応援事業、自治公民館整備事業 ほか      |
| 合計                 | 8,913  | 12,449  |                                |

寄付採納報告



鈴木町長に目録を寄贈する安孫子代表理事組合長(右)



7月8日、JAさがえ西村山農業協同組合(安孫子常代代表理事組合長)から非接触型消毒液スタンド4基を寄贈いただきました。善意に感謝いたします。

アイジー工業株式会社が紺綬褒章を受章

■総務課 総務係 ☎67-2111



伝達を受ける高光代表取締役社長(左)

昨年3月にまちづくり寄付金として町に一千万円を寄付したアイジー工業株式会社

(高光克典代表取締役/東根市)が公益のために多額の私財を寄付した功績で紺綬褒章を受章し、7月29日に鈴木町長から伝達を受けました。これまでいただいた寄付金は朝日町アイジー基金として、児童生徒の教育に活用されてきました。近年は中学生海外派遣事業に活用され、これまで36人がその恩恵を受けています。今年度も同事業によるプリティッシュヒルズでの研修が予定されています。

台風第8号による避難所開設準備を実施

■総務課 危機管理係 ☎67-2111



各避難所担当に分かれ、設営準備の打ち合わせをする職員



防災倉庫から資材を運び出し、避難所開設に備えた

7月27日、山形県への台風第8号の接近に伴う万一の事態に備え、町は避難所開設準備を実施しました。準備説明では、新型コロナウイルス感染症対策を万全にしている避難所運営や新たに導入した血中酸素濃度を測定するパルスオキシメーターの説明、昨年の避難所開設時の「深夜のトイレに行く時の明かりがない」という反省から導入したセンサー感知式のランタンの説明など多岐に渡りました。その後、前田沢地区にある防災備蓄倉庫から町民体育館へ段ボールベッドや毛布等の資材を運びました。三浦浩一総務課長は、「このたびの台風の接近について、当町においては被害が出ず、避難所を開設することなく済みましたが、近年の災害状況を鑑みると、災害はいつ何時やってくるかわかりません。町では今後も有事の際に対応できるように準備してまいります」と述べました。町民の皆さまには、万が一に備えて、少なくとも3日分の水や食料等非常時用備蓄品の準備をお願いします。

朝日町の新型コロナウイルスワクチン接種状況 (7月31日現在)

|            |        |                |        |                |
|------------|--------|----------------|--------|----------------|
| 全年代の接種回数   | 1回目接種数 | <b>4,163</b> 回 | 2回目接種数 | <b>2,922</b> 回 |
|            | 接種率    | 62.00%         | 接種率    | 43.52%         |
| 65歳以上の接種回数 | 1回目接種数 | <b>2,748</b> 回 | 2回目接種数 | <b>2,663</b> 回 |
|            | 接種率    | 96.02%         | 接種率    | 93.05%         |

※接種数データは、ワクチン接種記録システム(VRS)に記録され、集計されたデータ  
※母数となる人口データは総務省公表の令和2年1月1日住民基本台帳に基づく人口

～ワクチン接種済みの方へのお願い～

ワクチンを接種した方は、新型コロナウイルス感染症の発症を予防できると期待されていますが、他人への感染をどの程度予防できるかはまだ分かっていません。引き続き、下記の感染予防対策の継続をお願いします。

手洗い



マスクの着用



3密の回避



ミスノ株式会社×町内若手果樹農家ワークショップ

■政策推進課 広報ブランド係 ☎67-2112



話し合いでは頻りに笑いが起き、活発な意見交換が行われた



(左から) モニターに映る大阪本社の皆さんと川久保さん、蔵重さん

7月28日、町づくりで提携を結ぶミスノ株式会社と町内の若手果樹農家のワークショップが行われました。昨年「農作業用手首サポーター」の商品化にこぎつけたこのワークショップ。ミスノ営業統括本部営業推進部の川久保浩之さんと東北支社の蔵重大悟さんが来庁し、大阪本社事業部と企画部の方とウェブ会議ツールで繋いでの意見交換となりました。今回はレイアウトに焦点を当て、農作業をする上で困っていることや普段どういった基準で仕事用のレイアウトウェアを選んでいるかといったことをメインにぎくばらんな話し合いが行われました。会議の中で川久保さんは現在農家の皆さんは仕事着などをスポーツ用や登山用のもので代用しているかと思えます。そこをミスノは農家も使えるものではなく農家専用のものを開発していきたい」と話していました。今回話し合った内容を開発に反映しつつ、今後ワークショップを重ねて、来春をめどに商品化していく予定です。



▲クロールのフォームについて指導を受ける児童たち



7/9

まちづくり協定を締結するミズノ(株)と共同開催

### 泳ぎ方教室

7月9日、ミズノ(株)との共同開催により、町内小学校の児童を対象とした泳ぎ方教室が行われました。同教室は、児童がより専門的な指導を受けることで、泳ぐことへの新たな気付きや楽しさを体感する機会を作るとともに、先生方の指導の参考とすることを目的に開催。同社から講師を招き、泳ぎのポイントや速く泳ぐためのフォーム改善等の指導が行われました。

指導を受けた児童たちは、「教えてもらった泳ぎのコツを、記録会に向けた練習の中で生かしていきたいです」と話していました。



▲モンテディオのディーオと天童市のこま八とともに会場を盛り上げるウサヒ

7/11

朝日町民応援デーはここ数年負け無し!

### モンテディオ山形 町民応援デー

対象となる市町村民が特別価格で観戦できる「市町村応援デー」。朝日町民応援デーとなった松本山雅FC戦が7月11日、NDスタジアム山形で行われました。

キックオフに先立ち、鈴木町長がチームに町特産のワインを贈呈。試合は相手の固い守りを崩せず前半は0-0。折り返した後半5分にモンテディオ山形の山田康太選手が3試合連続となるゴールを決め、1-0でクラブ9季ぶりとなる5連勝。朝日町民応援デー負けなしの「不敗神話」は継続されました。

7/17

冷たい湧き水で夏の暑さもひんやり解消

### Asahi 自然観「展望 冷やし足湯」

朝日連峰山麓の湧き水「わさび沢水」を利用した、「冷やし足湯」が今年もホテル自然観の正面玄関脇に登場しました。

平成23年から実施しているこの冷やし足湯。ホテルの前に広がる雄大な山々を見ながら、かけ流しの天然水で気軽に「涼」を感じることができます。今年は正面玄関付近を癒しの空間として、自然素材を使って装飾。写真映えのスポットとしても楽しめます。展望冷やし足湯は9月中旬頃まで設置され、誰でも無料でご利用になれます。ぜひお試しください。



▲連日の暑さにぐったりしていたウサヒも涼を求めて冷やし足湯に出発



7/17

友好の町七ヶ浜町の子どもたちと浜辺で交流

### 海の子・山の子交流「海のつどい」

平成14年度から行われている「海の子・山の子交流事業」の「海のつどい」が今年も7月17日に七ヶ浜町で開催されました。この事業は友好の町協定を結ぶ海の町「七ヶ浜町(宮城県)」と山の町「朝日町(山形県)」の子どもが互いの町を訪問し、地域の文化・自然等の体験学習を通して交流を深めることが目的です。今年は大谷小4~6年生13人と、七ヶ浜町亦楽小学校4~6年生13人が参加。宮城県海上保安部の方を講師に海難事故防止のための活動を学んだほか、浜遊びやサンドアート等を楽しみました。



◀海の町ならではの灯台からの眺めに盛り上がる子どもたち



7/14

大人の学びを子どもたちの学びへ

### 浴衣の着付け教室

朝日中学校1学年の家庭科で「浴衣の着付け教室」が7月7日と14日に行われました。同校では地域学校協働活動を推進するために、様々な授業において地域の方を講師に迎え、学習を行っています。家庭科では、町中央公民館女性文化教室(刺し子教室・着付け教室)の方々から協力を受け数回にわたり授業を実施。今回の授業では着付け教室の方々を講師に迎え、浴衣を実際に着ることで、和服と洋服の構成や着方の違いについて学びました。

生徒たちは慣れない着付けに苦労しつつも、講師の方々に助けをもらいながら、全員が浴衣を着ることができました。着付けを体験した生徒は「着物を実際に着ることで、結び方等のポイントを学ぶことができた。私たちが日本の着物という文化を繋いでいきたい」と感想を述べ、講師として指導をした長岡輝美さんは「この授業で日本伝統の着物について知ってもらい、着物を着てみたいと思ってもらえたら嬉しい」と話しました。8月には刺し子教室の方々を講師に手縫いの基礎を学ぶ予定です。



▲着付け教室の先生方が一人ひとり丁寧に指導

◀着付けが終わった生徒に対して、タブレットでの撮影会が開始



▶器には自分の物と分かるように、文字やマークを入れています



7/24

竹を削って、箸と器を手作り

### ドキドキ探検隊「流しそうめんをしよう」

ドキドキ探検隊達人倶楽部(五十嵐義行代表)の企画・運営による北部公民館事業「流しそうめんをしよう」が7月24日、秋葉山交遊館で行われ、北部地区の小学生7人が参加しました。

流しそうめんを食べるための器と箸を自分たちで手作りするところから始めるこのイベント。竹林から竹を切り出し交友館まで運び、一人ひとりが自分の力で器を作っていました。同様に細長く割った竹を小刀で削り自分だけの箸を製作。続いて竹を割り、節を抜いて作った流し台を組み立てたら、お待ちかねの流しそうめんです。冷たい水とともにそうめんが流れると、子どもたちは歓声を上げながら口いっぱい頬張り、夏ならではの「涼」を味わいました。

子どもたちは「竹の器と箸もうまく作れたし、そうめんもおいしかったです」と大満足。保護者の方々も「普段家庭ではこんなに食べないのですが、自分で作った食器で友達と食べるという環境のおかげかなと思います」と笑顔で話していました。



# 中国由来の書「百福図」、「百寿図」が寄贈され「みんなの居場所 すぽっと」に飾られています



百福図(左)と百寿図(右)は集会室1の壁に展示



アルバムを見ながら当時の思い出を語る菅井さん

このほど、菅井功さん(沼向)から町に對し、中国由来の書「百福図」と「百寿図」が寄贈されました。過日大町地内にオープンした町地域福祉交流施設「みんなの居場所 すぽっと」に早速展示され、訪れる人の目を引いています。

これは、中国でリンゴ栽培の普及発展に尽力された菅井さんが、約25年前に同政府から贈られたもの。それぞれ百種類の字体で「福」と「寿」が書かれており、書全体の大きさは縦135センチ、横70センチ、一文字は約9センチ。両書ともに中国では幸福や長寿をもたらす縁起物として家庭などで飾られているそうで、今回、当施設のオープンに合わせて、「高齢者をはじめ、たくさん

の人が集まる場所で見てもらいたい」との思いから寄贈されました。

「戦時中、学徒動員で中国の工場で働いていましたが、終戦後の混乱の中で帰国する際、中国人に命を救ってもらいました。帰国して何十年以上経っても当時のことが忘れられず、いつか恩返しをしたいと思っていたんです」。りんご栽培指導のきっかけをこう話す菅井さんは、昭和61年から「日本シルバードランティアーズ」の一員として現地へ飛び、以後十年以上にわたって様々な地域で、リンゴ栽培の普及発展に尽力しました。平成3年にはその活動が評価され、外国人に対する最高の栄誉である「友誼賞」を受賞。書はその関連で贈られたもの

です。

百種類の字体の中には、文字というよりも芸術作品のようなものもあり、深く見入ってしまう作品です。ぜひご覧ください。

## 「ウサ日めくり」第3弾登場

有限会社近江屋(本町)が製作する桃色ウサビの日めくりカレンダー「ウサ日めくり」の第3弾が登場しました。再販の希望が多かったこのカレンダー。月や曜日が入っていないので、破れたりしなければいつまでも使えます。第3弾は第1弾と第2弾から人気の名言(迷言)に加え、新たなウサビ語録が掲載されており、毎日めくるのが楽しくなるデザインとなっています。販売価格は1冊1,980円(税込)。

このカレンダーは(有)近江屋ほか近江屋ネットショップ、道の駅あさひまち「りんごの森」やAsahi自然観等で販売しています。カレンダーに同封しているおまけシールの裏には番号が振られており、町の特産品やウサビグッズが当たる大抽選会も予定されています。



▲型紙の際に消しゴムを押し当て、星型を浮かび上がらせる手法



### 7/22 身近な材料で自分好みのエコバッグを製作 親子講座「オリジナルエコバッグをつくろう」

7月22日、遠藤あかねさん(真中)を講師に迎え、町教育委員会が主催する「オリジナルエコバッグをつくろう」が行われました。このイベントは平成30年度から行われている町中央公民館文化講座「くらしに彩りを。」の一環で今年で4回目の開催。この日は午前と午後の部を合わせて34人が参加し、2時間程かけて布のエコバッグに絵の具を付けた消しゴムやスポンジで絵や模様を描きました。参加者たちは完成した作品の出来に満足そうな笑顔を浮かべてバッグを持ち帰っていました。



▲エプロンシアターで、腸の長さを体験する子どもたち

### 7/27 健康な生活を送る基礎となる「食を営む力」を培う あさひ保育園「食育訪問」

7月27日、町食生活改善推進協議会(志藤一校長)の委員があさひ保育園を訪問し、4歳児クラスの園児たちに食事の大切さを伝えました。食育訪問は園児たちの食への関心を育み、食を営む力の基礎を培うことを目的に行われており、今年度2回目の実施。今回の訪問は、「ガマンしないでバナナうんちをしよう!」というテーマで、園児たちに人気のキャラクターのペープサート(紙人形劇)を使用して、好き嫌いせず野菜も食べてトイレを我慢しないということを楽しみました。



▶分からないところがあれば学習生活指導員から教えてもらえます

### 7/27~ 夏休みは涼しいうちに宿題を終わらせよう! あさひ地域未来塾「夏の陣」

7月27日から西部公民館、創遊館、北部公民館であさひ地域未来塾「夏の陣」が行われました。夜遅くまで起きていたり、昼近くまで寝ていたり生活リズムが崩れがちな夏休み。参加した子どもたちは学習生活指導員の指導の下、休み中の宿題に取り組みました。長期休業中の家庭学習の定着を図ることを目的に平成29年から行われているこの事業。参加者は「家ではなかなか集中できないけど、ここに来ると宿題をしなくちゃいけないという気持ちになり宿題が進みます」と話していました。



◀頑張った作品を持ってにっこり笑顔の子どもたち

### 7/29 30 夏休みの思い出がまた一つ 放課後児童クラブ「わくわく工作」

7月29日と30日に、放課後児童クラブ「りんごっこ」で、アルミホイルを使ったステンドグラス作りが行われ、2日合わせて町内の小学生40人が参加しました。子どもたちは、それぞれ好きなイラストをプラスチック板の下に敷き、ペンでなぞり色を塗っていきました。できたプラスチック板とクシャクシャにしたアルミホイルを写真立てに入れると半透明なイラストが透けてステンドグラスが完成。完成した作品はりんごっこ入口に飾られ、子どもたちはお互いに良いところを褒め合っていました。



朝日町インバウンド推進員の林以真です。暑い日々が続きますが、皆さんお元気でしょうか。私の出身地である台湾は山形の夏よりもさらに気温が高く、日中は40度を超えるような暑い日が続くのが特徴です。

さて、台湾人が日本の夏に対して憧れを持つ風物詩のひとつがお祭りです。夜の火花や出店での食べ物、水風船つりなど日本らしい魅力的な祭りに誘われたい断る台湾人はいないと思います。

コロナ禍のため今年も大きなお祭りが行われず、残念に思っていたのですが、豊龍神社で思い出に残る素晴らしい七夕祭がありました。



町地域おこし協力隊と桃色ウサビの「中の人」こと、佐藤恒平情報交流総合アドバイザーによる連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。

## 「台湾人に大反響！町のお祭り紹介」

インバウンド推進員(地域おこし協力隊) **林以真** (台湾出身)



▲林隊員がSNSで紹介した写真記事。左下の数字が閲覧者数

その日は、はじめに松本亭で行われた笹巻作り体験に参加して笹巻と七夕の風景を撮影。その後、自分自身がモデルとなって写真を撮るために、急いで浴衣を着付けして豊龍神社へ向かったところ、神社では色鮮やかな紫陽花で素敵に彩られた花手水が迎えてくれて感動しました。慌ただしい中でしたが、とても楽しく充実した夏の日となりました。

取材した後には写真や動画付きの記事をSNS等で台湾へ向けて発信したところ、記事を見てくれた人がなんと7千人を突破！他にも白山神社や大沼浮嶋稲荷神社の祭礼の様子も発信し、こちらも大きな反響がありました。

これからお祭りをはじめとする催しがありましたら、実際に体験させていただき、自分自身も楽しみながら取材をしていきたいです。小さな地域のお祭りにもとても興味がありますので、ぜひお誘いいただけます。



## 去年と同じと思って放置していませんか？ 精密検査を受けましょう！

【令和3年度 第5回】  
今月の担当…布施 真好 主事補



今年度の町の健診は5月から開始されていますが、皆さんはお申し込みされましたか？早期に受診された方は、健診結果がお手元に届いているかと思えます。

健診結果の中には、がん検診の精密検査の案内が同封されている場合があります。昨年度の町のがん検診の精密検査受診率を調べると、大腸がん検診は80%、肺がん検診は100%という結果でした。

一方、胃がん検診の精密検査受診率は55%で、約半分の方が受診していませんでした。最新の山形県胃がん検診精密検査受診率は83%となっており、県と比較すると町の受診率は30%低い状況にあります。

精密検査該当者には、症状がないため検査を受けないという方もいるようです。しかし、健診を受けても精密検査を受けないとせっかくの健診が無駄なもの

今年度の健診日程

|                     | 日程        | 受付時間   | 場所                 |
|---------------------|-----------|--------|--------------------|
| センター健診              | 8月31日(火)  | 6:30~  | 総合健診センター<br>(寒河江市) |
|                     | 9月17日(金)  |        |                    |
|                     | 10月6日(水)  |        |                    |
|                     | 11月16日(火) | 7:30   |                    |
|                     | 12月10日(金) |        |                    |
|                     | 1月7日(金)   |        |                    |
| レディース検診<br>(乳・子宮がん) | 10月25日(火) | 13:00~ |                    |
|                     | 11月28日(木) |        |                    |
|                     | 11月11日(木) | 13:30  |                    |
|                     | 11月15日(月) |        |                    |
|                     | 11月26日(金) |        |                    |
|                     | 12月17日(金) |        |                    |

になってしまいます。病気は早めに見つけて治療することで、体や経済的な負担が軽減されます。精密検査が必要になった場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

町の健診には、各種がん検診も含まれています。今年度の日程は左記のとおりとなっていますので、まだ受けていない方は健康福祉課までぜひお申し込みください。

▼健康福祉課 保健医療係  
☎67・2116



### 第165回直木賞受賞作

「星落ちて、なお」  
澤田 瞳子  
文藝春秋

不世出の絵師、河鍋曉斎が死に、これまで家の中で辛うじて保たれていた均衡が崩れた。一門の行末は、娘とよ(暁翠)の双肩にかかっているのだが…。激動の時代を生き抜いた女絵師の一代記。「別冊文藝春秋」連載を書籍化。

### 第165回直木賞受賞作

「メキシコトリポカ」  
佐藤 究  
KADOKAWA

メキシコの麻薬密売人バルミロと臓器売買コーディネーターの末永は、新たな闇ビジネスを実現させるため日本へ向かう。少年コシモは知らぬ間に彼らの犯罪に巻き込まれ、「カドブンノベル」掲載に書き下ろしを加えて単行本化。

### 【その他の新刊】

- ▼彼岸花が咲く島 / 李琴峰
- ▼高瀬庄左衛門御留書 / 砂原浩太
- ▼オーバーヒート / 千葉雅也
- ▼氷柱の声 / くらうれいん
- ▼水たまりで息をする / 高瀬隼子
- ▼星に祈る / あさのあつこ
- ▼婿どの相違席 / 西條奈加
- ▼兵諫 / 浅田次郎
- ▼養老先生のさかさま人間学 / 養老孟司
- ▼山野草図鑑 / 金田洋一郎
- ▼へんしんどうぶつ / あきやまただし
- ▼ねずみくんのピッピッピフニック / 上野紀子
- ▼マイマイとナイナイ / 宇野亜喜良
- ▼ゆうれいのまち / 大畑いづる
- ▼おんなのしるいあし / 寺岡孝之
- ▼ちんぷうがい / きいきい / 軽部武宏
- ▼罪の因果性 / 横関大
- ▼ヒトコブラクダ / 上・下 / 万城目学
- ▼ブレイクニュース / 薬丸岳
- ▼神よ憐れみたまえ / 小池真理子
- ▼君と歩いた青春 / 小路幸也
- ▼海神の子 / 川越宗一
- ▼飯面 / 伊岡瞬 ほか

### 【ブックテマコーナー】

特集「スポーツには世界と未来を変える力がある」

## 町全体が博物館！ 朝日町エコミュージアム サテライト散策

### 道の駅あさひまち 第47回 「りんごの森」

【DATA】和合地区沼向の国道287号線東側にある。

【一言メモ】 販売施設棟の営業時間は9時～18時(12～3月は9時～17時)、正月3日間休業。駐車場とトイレは24時間利用可能。

平成27年、町が総合交流拠点施設として整備した道の駅あさひまち「りんごの森」がオープンしました。県内では18か所目の道の駅です。メインの販売施設棟の1階には農産物や加工品の販売、軽食・喫茶コーナー、2階にはギャラリースペースが設けられています。入口右手には町観光案内所があり、町観光協会の職員が対応しています。メイン施設の南東には農産物加工所も整備され、地元食材を活用した総菜・菓子等を製造し、販売施設棟内で販売しています。広い駐車場ときれいなトイレも訪れる人々から好評です。

道の駅の建物を上空から見ると、販売施設棟が丸いりんご、トイレが木の葉の形をしているよ。産直コーナーでは、りんごをはじめ町内産の新鮮な果物や野菜やワインや菓子等を販売しており、軽食コーナーや外売場では町の食材にこだわったグルメを楽しめるんだよ。毎月7日には友好の町である宮城県七ヶ浜町の海産物も販売しているんだよ。

案内人のつぶやき

# 戸籍のまど

Asahi town

7月1日～7月31日届出



## Births

すこやかに

| 区名   | 出生児氏名 | 性別 | 保護者名   |
|------|-------|----|--------|
| 本町   | 齊藤 巳月 | 男  | 一馬・芹奈  |
| 元町   | 鈴木 小遥 | 女  | 裕樹・つかさ |
| 大谷第六 | 志藤 茉夏 | 女  | 智之・加奈子 |
| 送橋   | 清野 陽真 | 男  | 優人・友麻子 |

## Marriages

おしあわせに

渡辺 達也 (前田沢) × 吉田 桃子 (寒河江市)

## Obituaries

やすらかに

| 区名   | 死亡者氏名  | 世帯主名 |
|------|--------|------|
| 常盤   | 阿部 正   | 勝利   |
| 四ノ沢  | 長岡 嘉作  | ふみ子  |
| 常盤   | 佐竹 利雄  | 英子   |
| 元町   | 海野 はな  | 本人   |
| 舟渡   | 堀 健一郎  | マサ子  |
| 下芦沢  | 大滝 きみよ | 本人   |
| 白倉   | 渡邊 テル  | 本人   |
| 松程   | 鈴木 功   | とく子  |
| 大谷第四 | 東 昇    | 勝利   |

## Population

人口と世帯数

●令和3年 7月31日 現在  
※( )内は先月比

|     |              |
|-----|--------------|
| 人口  | 6,425人 (-9)  |
| 男   | 3,189人 (-6)  |
| 女   | 3,236人 (-3)  |
| 世帯数 | 2,381世帯 (-2) |

----- 7月中の異動 -----

|    |     |    |    |
|----|-----|----|----|
| 出生 | 3人  | 転入 | 5人 |
| 死亡 | 10人 | 転出 | 7人 |

(※外国人を含む)

### ～お詫びと訂正～

本誌の先月号(令和3年7月号)の「戸籍のまど」のすこやか欄で「齊藤巳月」さんの記載漏れがあったため、今月号に記載しています。また、やすらかに欄で「清野しづる」さんと記載しましたが、正しくは「清野しづる」さんでした。

お詫びして訂正いたします。

## こないのリンゴさん

(334)

ホリイ



### 2年ぶりに緑が丘公園町民プールがオープン!

7月22日、緑が丘公園町民プールがオープンしました。昨年はコロナ禍の影響でオープンしなかった同プール。今年は、新型コロナウイルス感染対策として、営業時間の変更や施設内の消毒、更衣室の人数制限などを行い、町民の皆さんが「安全に」、「安心して」、「楽しく」利用できるように取り組んでいます。初日は30度を超える真夏日でオープンを待ち望んでいた子どもたちで賑わいました。町民プールは8月22日まで営業しています。

## あさひっ子の活躍光る

# 各種スポーツ大会の成績

### 全国大会出場

【令和3年度 第72回山形県高校総体兼全国高校総体山形県予選会(夏季競技)】

優勝 テニス競技 男子団体 遠藤大空(日大山形高2年/真中)

【第48回東北総合体育大会及び、第76回国民体育大会山形県予選会(少年)】

優勝 テニス競技 男子個人 遠藤大空(日大山形高2年/真中)

【令和3年度 第61回山形県中学校総合体育大会】

第2位 剣道競技 女子個人 東海林妃那子(3年/本町)

### 東北大会出場

【令和3年度 第61回山形県中学校総合体育大会】

第2位 剣道競技 女子団体 東海林妃那子(3年/本町)、佐藤奏(3年/小原)、清野綺音(3年/新宿) 浅岡莉愛(2年/宇津野)、佐藤羽華(1年/新宿)、渡邊日和(1年/大谷第五) 佐竹陽菜(1年/常盤)

第2位 剣道競技 女子個人 東海林妃那子(3年/本町)

第2位 陸上競技 男子四種 鈴木明空(3年/大谷第四)

第3位 剣道競技 男子個人 遠藤新太(3年/栗木沢)

第4位 陸上競技 男子個人1年100m 小松蒼介(1年/八ツ沼)



遠藤大空選手

山形県高等学校総合体育大会(テニス競技)が6月4～6日に酒田市で行われ、遠藤大空選手が男子団体で優勝し、8月2日、長野県で行われた全国高等学校総合体育大会に出場しました。また、遠藤選手は7月3～4日に天童市で行われた国民体育大会山形県予選会(テニス競技)で個人優勝を果たし、国民体育大会(10月1日/三重県)への切符を手に入れました。遠藤選手は「初めてのインターハイ出場で、自分の力を出し切りましたが負けてしまいました。10月にある国体では1回でも勝てるよう日々の練習を頑張っています」と意気込みを語りました。

7月24～25日に各会場で行われた山形県中学校総合体育大会では、東海林妃那子選手が、剣道競技女子個人で第2位となり、全国大会(8月20日～22日/神奈川県)出場を決めました。東海林選手は「全国大会では、1試合目から自分の剣道ができるようにしっかりと準備を行い、上位入賞できるように戦いたい」と話していました。また同大会では剣道女子団体が第2位、陸上男子

県中学校総合体育大会の成績  
7月20日～22日各会場

第3位 柔道女子団体(出場選手) 海野結菜、海野真穂、菊地舞

第7位 陸上女子共通4種競技 小松明姫

第37回山形県小学生陸上競技大会の成績  
7月22日NDスタジアム山形

第6位 陸上6年女子100m 小松莉々姫

【お詫びと訂正】  
本誌の先月号(2021年7月号)「各種大会の成績」において、左記の通り掲載漏れがありました。お詫びして訂正いたします。

第27回西村山陸上競技選手権大会の結果  
【6月13日あかねヶ丘陸上競技場】

第1位 高校一般男子400m 阿部悠斗(八ツ沼/谷地高)

四種で鈴木明空選手が第2位、剣道男子個人で遠藤新太選手が第3位、男子個人1年100mで小松蒼介選手が第4位に入賞し、東北大会(剣道…8月5～6日/福島県、陸上…8月8～9日/秋田県)への出場が決定しました。



▲東海林妃那子選手

年に1度新たな「島」を切り出す神事

# 大沼浮島「島まつり」



大小様々な「島」が浮遊する神秘の沼として、信仰の対象となつている大沼の浮島。7月18日、同地で伝統の「島まつり」が行われました。島まつりは年に一度、湖畔から新たに「島」を切り出し、その年の吉方位にある旧国名にちなんで名前を付ける神事です。

今年の吉方位は南南東。神事は厳かにすすめられ、新たな島は大沼浮嶋神社の最上俊一郎宮司によって「安房之島」(現在の千葉県南部の旧国名)と命名されました。その名称を鈴木浩幸町長が木札に揮毫。この木札と、今年発見された江戸時代に使用されていた同神社の印影を描いた木札を2枚立てた島は、氏子らの手により沼の中央へ運ばれます。訪れた人々は、島が水面を漂う様子を静かに見守っていました。



今月号は小中学校のICTの活用について特集しました。「GIGAスクール」、「一人一台タブレット配布」といった言葉だけが先行していましたが、授業にお邪魔してみると、思った以上に様々な用途に使われていることを知ることができました。私がかつどの頃は「パソコンの授業」はあっても授業にパソコンを活用することは少なかったように思います。約20年前と現在の教育の違いを感じました。

今回取材する中で、お忙しい中多

## 春夏秋冬 編集後記

学びたいという  
意欲が一番大事

くの先生方にご協力をいただきました。先生方は子どもたちが長期休暇中でも、ICTだけでなく各種研修や勉強会を通してスキルアップに励んでいて頭が下がる思いでいっぱいです。先生方の頑張りに刺激され、私もこの夏一つでも多くスキルアップを目指したいと思いました。

例年になく暑い日が続いていますので、水分をこまめにとり、体調管理に気をつけましょう。鈴木 貴典